

今週のビルマのニュース
2009年7月17日【0928号】

スーチー氏裁判24日に最終弁論 イェトー氏は入院

・インsein刑務所の特別法廷で行われているアウンサンスーチー氏の裁判は10日に再開し、スーチー氏側の3人目の証人が証言した。24日に最終弁論があり、その後まもなく判決が出ると見られる。スーチー氏は17日に弁護団と面会し、最終弁論の方針などについて協議する予定（15日付ミジマほか）。

・スーチー氏宅に侵入したとして起訴されている米国人イェトー氏がインsein刑務所内の病院に収容された。氏の弁護士によれば、氏は宗教上の理由で49日間食物を摂らなかった（10日付イラワディ）。

【背景】軍政は5月、突然訪れた米国人男性を家に入れたことが来客を禁じる自宅軟禁の規則に違反したとして、スーチー氏を起訴した。起訴の背景には、来年予定の総選挙を前に国民の支持を集める氏の拘束期間を延長したいという軍政の政治的動機があり、有罪判決（最長禁固5年）が出るとの見方が大勢。

国連安保理でビルマ情勢について討議

・国連の潘基文事務総長は13日、7月初旬のビルマ訪問について安全保障理事会で報告し、軍政トップ・タンシュエ将軍が来年予定の総選挙を自由で公正なものにすると確約したことなどを述べ、訪問の成果を強調した（14日付日経ほか）。事務総長の訪問については、国民民主連盟（NLD）が9日に声明を出し、事務総長との面会時間が10分間しかなく、NLDが重要と考える問題について真剣に議論することができなかったと不満を表明している。

・安保理の会合で軍政のタンシュエ国連大使は、事務総長の要請に応じて2010年の総選挙前に恩赦を行う準備をしていると述べた。恩赦の理由は「総選挙に収監者らが参加できるようにするため」と説明したが、恩赦の時期や規模、対象に政治囚が含まれるか等の詳細は明らかにしなかった（14日付朝日）。

・軍政は過去5年間で4回恩赦を行い、約3万8,000人を釈放したが、このうち政治囚は120人のみ。最近では今年2月に恩赦で約6,300人を釈放したが、政治囚は31人しか含まれず、それも大半が刑期をほぼ終えた人たちだった（16日付DVB）。今回発表された恩赦も、これまでに軍政が行ってきた恩赦と同様、国際社会からの圧力を一時的に軽減させるための戦術にすぎず、多数の政治囚の釈放や政治改革にはつながらないと見られる。

カチン州で地すべり、死者多数か

・ヒスイの産地として知られるカチン州パカンで4日、大雨による大規模な洪水と地すべりが起きた。被害の規模について正確なところは不明だが、数十人から100人以上が死亡したとの情報がある。国境なき医師団によれば約1000人が家を失い、寺院や学校に身を寄せている。現地で救援活動を行っている団体によれば、被災者数百人が飲料水や食物、薬品などを必要としている（15日付カチン・ニュース）。

ビルマへの政府開発援助（ODA）約束状況など
新たな発表はなし。

イベント

・在日ビルマ人共同行動実行委員会 国連事務総長に対しスーチーさんを含むすべての政治囚の釈放と対話の促進を軍政に働きかけるよう要請するアピール行動（国連大学前、13~17日 15~16時）

・日本ビルマ救援センター月例ビルマ問題学習会
講師：久保忠行（神戸大学大学院）（大阪ボランティアセンター、17日 19時~）

・ロヒンギャ民族集団訴訟（難民不認定処分の取消、退去強制令発付の取消／無効確認を求める）原告本人尋問（東京地裁 709号法廷、21日 13時半~）

・“難民と一緒に暮らせる日本に！”ビルマの現状と少数民族ロヒンギャ難民 講師：根本敬（上智大学外国語学部教授）主催：人権・正義と平和連帯フォーラム、アムネスティ福岡グループ（福岡市立青年センター5F、28日 13時半~）

・日本ビルマ救援センター特別講演会「アウンサンスーチーの「非暴力主義」とタイ国境で戦う民主化闘士たちの解釈」講師：根本敬（阪南大学サテライト中小企業ベンチャーセンター、8月3日 19時~）

もっと詳しい情報は

きょうのビルマのニュース（平日毎日更新）
<http://www.burmainfo.org/news/today.php?mode=2>

ビルマ情報ネットワーク
<http://www.burmainfo.org>

お問い合わせ
ビルマ情報ネットワーク 秋元由紀
yuki@burmainfo.org 080-2006-0165